三村合同住民海外研修事業②

ドイツ人を見習って……。

西方昭子

まる三年前、同企画に主人が参加。私は主人がとても羨ましくて、一週間を子供達と一緒にモンモンと過ごしたことを想い出します。いつかは私も…。と思った夢が実現しました。ところが、何ということでしょう。出発前日に下の子が発熱。身体に発疹出現。母親心の残る私は、後ろ髪をひかれながら役場へ向いました。成田空港で電話をしたら、「水痘で、熱はもうすこし出ると言われた。」と主人。原因がわかり、少し心配だった私の心は、飛行機と共に空高く舞いあがっていきました。

今回の視察で一番印象に残ったのは、ドイツ人の環境保護に対する意識のつよさです。幼稚園から環境保護に関する教育がはじめられ、市民意識を高めているとのことです。小さな頃からきちんとした基本を教えていく教育には、頭が下がります。ゴミのマナーを守らない人はいない。と聞いてはいましたが、納得できます。ゴミは日本同様、市によって分別が異なっていましたが、フランクフルト市では、7種類に分別され、街のあちこちでゴミステーションを目にしましたが、きれいに整理されていました。ガラス瓶がリサイクルしやすいように、透明と色別に分別されていたり、古着専用の容器があり、赤十字を通じて各国へリサイクルされているとのことでした。

視察したシーメンス社は、モーター部門から発展した電気メーカーの企業です。電気製品の環境をモットーに、古い部品を分類しリサイクルしています。いろいろな場面で、環境に対する配慮がうかがえました。製造過程で出る排ガスを洗浄・濾過をして室外へ出すシステム。発癌物質は厳しくチェックされ、密封状態になる場所に保管されているなど、安全対策が何重にもとられ、人にも安全に管理されていました。各々の部門で、注意事項の書かれたマニュアルがあり、日々の仕事をチェックすると共に年一回職員の教育体制がとられていました。また、ドイツ人にとって大切な資源となっている水に対しても、工業用水は特殊フィルターを通して流水し、環境と同時に節約につながるシステムがとられていました。容器包装をなるべく少なくし、ガラス類を上手に使いながら、リサイクルを主流として、市の環境課とうまくコンタクトをとりながら、〝企業は生産し、(利益だけにとらわれず)いかに社会に還元できるか?〟という環境問題を意識させていく。と言うモットーにうまくのり、営業している一企業といえます。

▲私は誰?

ところが、環境にやさしい企業も社会の波をうけ、以前は週35時間労働でしたが、失業者が多く、失業者対策として週28時間労働で稼働し、給料も10%減少したそうです。日本のリストラ制とは違い、ドイツ人のやさしさを垣間見たかんじがしました。

村のゴミの現状はどうでしょう?ゴミ袋指定制が導入され、もうすぐ一年がたち、以前よりゴミの量が減量したとは聞きますが、ゴミステーションには、まだ違反ゴミのシールが貼られた袋を目にします。マナーの点では今一つのようです。私の実家でも5~6年前から導入されましたが、袋には、誰が出したゴミかわかるように名前を書く所があります。初めは抵抗がありましたが、「自分の出したゴミに責任をもつ。」という意味では、あたりまえかな?と思いました。個々がゴミをもっと意識し、この地に住み暮らしているからには最低限地域のマナーを守ってほしいものです。

ゴミに責任を持つ。リサイクルをうまく利用する。ゴミの減量化(我家は、生ゴミにEM菌を使用し、土壌にうめています。)につとめる。できることは子供と一緒にやり、ゴミを意識させる。これが、私のモットーです。昔は、「かしこい主婦はやりくり上手。」という言葉がありましたが、今は、「かしこい主婦は、ゴミのでるものは買わない。」というドイツの教えを生かしたいと思います。

ドイツ人と共に、フランスルーブル美術館で見た「ミロのヴィーナス。」S字の曲線の美しさと一緒に、美術の本で正面像しか見たことのない私にとって、後ろ姿は、よい意味でのショックを与えてくれました。もう感激でした。

海外研修という、とても貴重な体験ができうれしく思っています。新しい人達の出会いは、私の宝物となり、違った自分の発見にもつながりました。一週間御一緒だった皆様、どうもありがとうございました。

海外研修事業に参加して

竹内春美

今年で5回目となる三村合同住民海外研修事業、行く先はドイツ、フランスで2回目のミーティングでしっかりと心構えを学び旅行に出発しました。

5泊7日で長いようで、あっという間の日々でした。総員18名のグループは一路欧州を目指しました。当日の朝は、月潟村長さんから励ましの挨拶をいただき、気を引き締めて飛行機に乗りました。11時間半という長い飛行を終えて、まずはドイツのフランクフルトの空港に降りました。ドイツの印象は、静かな都市という感じが最初にしました。

私たちは、最初の視察場所は「環境問題行政視察」ということで、リサイクルセンターのシーメンス社を訪問しました。日本の面積とほぼ同じくらいのドイツの南の方の位置にあるニュルンベルグという都市にある会社です。

そこでシーメンス社の方からゆっくりとセンターの中を見学させていただきました。ずい分前から環境問題に取り組んでいるドイツの中でも最先端をいっているこれらの企業の内容は、(1)廃品のトータル検査後、再利用(2)個々の部品類の検査後の再利用(3)分離・分別後、新製品の2次材料とし、修理・加工後の再利用という3つのステップで環境調和型製品の設計と製造をしているとのことでした。リサイクル工場と思えないほどきれいに整理されている工場で、今はドイツも失業者が年々増えていて、このシーメンス社もみんなに行き届くように週28時間の労働になっているんだそうです。

次に向かったのは「農業行政視察」ということで、市民農園を見学に行きました。ミュンヘンという都市にある市民農園は年金生活者や若い家族等庭の持てない人々に低料金で土地を貸しだしてくださるという制度でした。自分たち思い思いに木々を植え、畑を耕し、ちょっとした家を建て40時間から60時間を楽しむという所でした。

都市住民が自然と親しみ、人間性を回復する上で緑は無くてはならない存在であるということのようです。都会の騒音から開放された自然の中で静かな時を過ごす場所として造られたこの市民農園は、大変興味深い所でした。

ドイツの訪問も終わり、次はフランスです。飛行機で2時間ほどのフライトでした。

ヨーロッパの中は1度入国審査をすれば、国を移動しても審査の必要がないシステムになっているようで、私たちは、パリ空港ではパスポートを出さなくても良いということだったのでちょっとびっくりしてフランスの都パリに降りました。

研修も3か所目になります次の場所は、「福祉関連行政視察」ということでパリの近郊にある高齢者対策所(市役所)を訪問しました。高齢者対策について担当部署から説明をしていただきました。女性が2人(1人は議員さん、1人は市役所の方)、お二人とも見るからにキャリアウーマンという感じでした。その方々に私たちは、色々質問をしました。高齢者といっても自立心のある人達が対象であることだそうです。その人達に無料でバスの送迎をしたり、1日1食の食事の提供やイベントの参加など色々なサービスが受けられるそうです。利用者は3,500人ほどの高齢者の人達ということで、とても良いことだとおもいました。

午後からは、高齢者の受け入れセンターを見学させていただきました。そこでは、看護婦でもあるセンター長さんから説明を受けました。一人で入居の方も夫婦で入居の方もおられるそうです。入居されている方達にもお会いしましたが、皆さんとも楽しそうにしておられました。丁度おやつの時間だったのですが、和気あいあいでとても明るく、高齢者センターとは思えないほど皆さん元気で、1日1日を有意義に生活していると感じました。

最後の視察場所は「経済視察」ということで、ランジス市場を見学に行きました。1969年に開設されてヨーロッパ内で1番の規模を誇る市場だということでした。中でも小麦粉を作っている工場を見学させていただきました。4階建てになっている上の階まで吸い上げて、下に下がるにつれて小麦が削られて粉になっていく様子がわかりました。

この4日間の訪問は、時間がちょっときつい感じがしましたが、行く先々で温かく迎えてくださって本当に良かったです。この研修を終えて、いろんなことで見聞を広げられ、初めての体験ができたことを感謝しています。このような会に参加できたことを本当に良かったと思います。ありがとうございました。